

ちよつとおそばに... 児童書作家・原ゆたかさん

子ども時代の遊びが 今につながっている

「イタズラばかりしているけれど、根は優しくて正義感の強いかいけつゾロリ。そんな子どもたちのヒーローを生み出した原先生は、どのような幼少期だったのでしょうか。原とにかく絵を描くのが好きで、子どもでもしたね。4、5歳のときに墨で新聞紙に絵を描いている写真がいまでも残っています。それで絵の教室に通わせてもらいながら、漫画みたいなものも描き始めて、小学5、6年生の頃には漫画好きの友だちと、どっちが面白いものを描くかで競い合っていました。あと、自分が住んでいる町の壁新聞を作っていて、ネタ集めに苦労したりね。当時は今ほど「勉強しろ」と言われる時代ではなかった。それと小学生の頃には、8ミリカメラで怪獣映画も撮りました。友だちの部屋に町並みのジオラマを作ったんですけれど、いま考えれば、けっこう無茶苦茶なことばっかりだったな。」



子どもの頃の原先生。昔は映画監督を目指していた時期もあったそうです

ものを焚いたり。粘土で作った工場にお線香を立て、煙突に見立てたりとかね（笑）。いまの感覚では、「危ないからダメ」と言われそうなことばかりだと思います。原 それも四畳半ほどの室内で（笑）。ただ、そうやって自分で工夫しながら遊んでいた経験が、大人になって「かいけつゾロリ」シリーズを描き始めてから、「ゾロリが追い詰められているときの解決策につながる」というような情懷を表現するようになった。

1953年生まれ、熊本県出身。75年に初めての絵本「ちいさなもり」(フレーベル館)でデビュー。87年に「かいけつゾロリ」シリーズの1巻目にあたる「かいけつゾロリのドラゴンたいじ」(ポプラ社)を発表した。同シリーズは世代を超えて多くの子どもたちに読みつがれる児童書の画化。04年には初のテレビアニメ化を果たすなど、子どもたちのあいだでその人気が社会現象化。



ちよつとおそばに...

シリーズ143

児童書作家
原ゆたかさん

複数の長編映画が公開された後、シリーズ35周年を迎えた22年には、同年に発表した71巻目の「かいけつゾロリにんじゃおはけあらわる!」(ポプラ社)で、「同一作者によって物語とイラストが執筆された単一児童書シリーズの最多巻数」としてギネス世界記録に認定された。累計部数は3500万部を突破。同シリーズは来年でついに40周年。そんなメモリアルな年を前に、今回は幼少時代の思い出や今後の展望などについて伺いました。